

院長就任のご挨拶

院長 奥田 康一

このたびの東日本大震災により被害を受けられた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。当院からも東北地方に救護班が継続して出動しておりますが、一日も早く復旧されますように心よりお祈り申し上げます。

私は4月1日付で浜松赤十字病院の院長に就任します。昭和13年に創立された伝統ある病院のトップとなり、責任の重さに身の引き締まる思いでいっぱいです。昭和61年着任後25年となり、四半世紀が経過したことになります。その間多くの先輩に指導され、さらに多くの同僚、後輩の医師や職員に支えられ今日まで診療を中心に従事してまいりました。

また、診察、検査、手術などを通じて大勢の患者さんや家族の方と接し、その他にも様々な人と出会い、多くのことを学んでまいりました。

近年、医療内容は、日進月歩で進歩し、病院の果たすべき役割も変化してきました。平成19年11月にはこの浜北地区に移転新築し、高度医療に対応できる機器と快適な療養環境を備えたハード面を充実させました。ソフト面では、病診、病

病連携を中心とした新しい医療提供体制を構築し、急性期医療に対応してきました。急速な高齢化が進む人口構造の変化などに伴い、病院も少しずつ変わらざるを得ず、今後も時代の要請とともに柔軟に適応していく必要があります。

ひとつの事業を成し、目的を達成するためには組織がどうしても必要です。組織を動かすのはやはり人です。人を幸せにするには自分も幸せでなければなりませんと信じています。病院も患者さんにより良き医療を提供するためには、病院自身も健全であることが必要です。当院の理念である『赤十字の人道と博愛の精神に基づき、住民に信頼される地域中核病院』を真に実現するために、今後は病院という組織全体の運営、マネージメントを中心に責務を果たしていく所存です。

もとより浅学非才の身ですが、地域の皆様の健康増進とともに赤十字の重要な責務である災害救護にも職員一丸となり鋭意努力してまいります。

今後ともどうぞご支援よろしくお願い申し上げます。



新任 医師 紹介

あめみや しゅうすけ
氏名/雨宮 隆介

- 所属…外科
- 専門分野…外科一般
- 趣味…アイスホッケー、フットサル
- 好きな食べ物…奥さんの手料理



患者さんの目線に立った、親しみのもてる医師として、頑張っていきたいと思っております。

よなが かずひで
氏名/代永 和秀

- 所属…外科
- 専門分野…消化器外科(大腸)
- 認定医・専門医等…日本外科学会専門医
- 趣味…弓道
- 好きな食べ物…ラーメン



かんだ たかひろ
氏名/神田 貴弘

- 所属…循環器内科
- 専門分野…循環器内科一般
- 趣味…走る
- 好きな食べ物…カレー(甘口)



日々、全力疾走です。まだまだ未熟な医師ですが、少しでも浜松の医療に貢献できるように頑張りますので、何卒よろしくお祈りいたします。

形成外科の診察室が2階へ移動しました



平成23年4月から形成外科の診察室が、2階のJブロックへ移動しました。お間違えのないよう、お願いいたします。なお、形成外科の受付は、2階計算センターとなります。

岩手県に向け救護班を派遣

浜松赤十字病院では、東北関東大震災の救護のため、救護班1個班を岩手県に向け派遣しました。

救護班は、医師1名、看護師4名、薬剤師1名、事務2名の合計8名で、地震発生当日の20時52分に病院を出発しました。

救護班は、静岡日赤病院と日赤静岡県支部と清水で合流したあと、被災地である岩手県に向かい救護活動を行いました。

救護班派遣状況

- 第1班 派遣期間：3月11日(金)から3月16日(水)まで
- 第2班 派遣期間：3月16日(水)から3月20日(日)まで
- 第3班 派遣期間：3月23日(水)から3月28日(月)まで

各班の活動場所は、いずれも岩手県釜石市、岩手県上閉伊郡大槌町です



義援金のお礼

伊藤欣男様ほか、ご家族、アンティーオー(株)、メカニック(株)社員一同様から253万円余りの義援金を頂きました。この義援金は、日本赤十字社本社を通して被災者の方々へお届けします。心温まるご支援、職員一同、心から感謝申し上げます。

浜松赤十字病院院長

やさしい 疾患手帳

巻き爪でお悩みの方へ

形成外科 石川 佳代子



Profile プロフィール

いしかわ かよこ
氏名/石川 佳代子

- 所属…形成外科 ● 専門分野…形成外科一般
- 自己PR…いつも明るい笑顔と挨拶で患者さんをお迎えし、診察中は話しやすい雰囲気を作るように心がけています。
- 趣味…映画をみる ● 好きな食べ物…お刺身
- 星座…射手座 ● 血液型…A型

開して巻き爪の原因となる部分を切除する根治手術です。多くの場合、外来通院で治療可能です。再発予防のために、爪の切り方を覚えて適切な足のケアを行うことも大切です。

患者さんの爪の状態、体の状態に合わせて最適の方法をお話いたしますので、巻き爪でお悩みの方は、一度、形成外科へご相談ください。



巻き爪・陥入爪(かんにゅうそう)とは、爪の横が皮膚にくい込むことで炎症や痛みを伴う、比較的多い疾患のひとつです。不適切な爪きり、足の変形、靴と足の形が合わないことなど、様々な原因で起こります。

保存的な治療として、爪の横の皮膚をテープで斜めに引っ張りくい込みにくくするテーピング法と、巻き込んでいる爪と皮膚との間にコットンをつめて痛みを軽くするコットンパッキングがあります。その他に、くい込んでいる爪に縦に切ったチューブを入れて爪のわきの皮膚を保護するチューブ法や、爪の先端に形状記憶合金でできたワイヤーを通し、ワイヤーがまっすぐに戻ろうとする力を利用して爪の形を矯正するワイヤー法があります。

これらの方法でも症状が良くならない方、爪の根元が原因で巻き爪になっている方には、部分麻酔の手術を行っています。フェノール法では、巻き込んでいる部分の爪の一部取り、爪の根元を薬品で処理します。出血は比較的少なく、感染している場合にも行うことができます。そして最も確実な方法は、爪の根元の皮膚を切